３年　道徳授業

「エリカ　ー奇跡のいのちー」　６月２４日

～生きていることの重みについて考えよう～

【教材あらすじ】

第２次世界大戦中、強制収容所にユダヤ人を送る車内での親子を回想する形で描いた作品。「死」が待つ収容所へ向かう列車。牛を運ぶ貨車に押し込められ、立ったままぎゅうぎゅう詰めで、動くこともできない両親。何日もひしめき合いながら立ち続ける中、母親は決断した。生後３か月程の赤ちゃん「わたし」を、天井近くにある小さな窓から、車外へ放り投げる。そして、「わたし」はある女性に引き取られ育てられた。危険を冒してまで育ててくれた女性の存在。わたしのかけがえのないいのちは、今も輝いている。

〇授業を通して考えたこと。

・母が大事にして守ってくれた命を、女の人は危険を冒しても育ててくれて、ユダヤ人だからと言って差別せず見捨てない優しさがすごいと思いました。母や父、たくさんの人が育ててくれた大切な命だから、一生懸命生きようと思いました。

・ユダヤ人が無差別に６００万人も亡くなっていることを知り、とても恐ろしいなと思いました。お母さんが外に投げる時、ごめんなさいという気持ちもあったと思うので、とても悲しいなと思いました。

・どの国の人でも、同じ一つの命なのだからとても大切だと思った。他の人の命は大切って思っていたけど、自分の命の重さは考えたことはなかった。命はどの人も同じく大切なことが分かった。

・子供を投げるまでして助けたいという親の思いが伝わってきました。それぐらい大事にされているのだなと改めて感じました。一人の命がなくなるだけで、どれだけたくさんの人が悲しむのかと思うと、絶対に自殺や殺人をしてはだめだなと思いました。

・殺されそうになっていたけど、エリカの両親の助けたいという思いが届いて、優しい女の人に育ててもらえたのは、本当に奇跡だと思うし、かけがえのない命だと思いました。今は当たり前になっていることが、この時代では、命に関わることだと知って、自分の命も、家族や友達、他人の命も今まで以上に大切にしたいと思いました。

・自分の命も大切にされていることに、改めて気づかされた。みんなの命には、命を懸けて守ってくれた人がいると思うので、大切にしたい。

・エリカが生まれた時代は、いつ死ぬかわからないような状況でした。でも、そんな中で、何とかして生きようとするする気持ちが心に響きました。いくら相手にむかついたり、いろんなことを言われ落ち込んでしまったり、（それで争いあうと）最後にはどちらかの命が失われてしまうと思います。よく考えて行動することが大切だと思いました。

・何も思わず、なるがままに生きていると「生」というものを忘れてしまうのかなと思った。

・自分の命を大切に思っている人がいて、その人たちのおかげで命が輝いている。普通に何事もなく生きていると命の大切さについて忘れそうになるけど、多くの人が支えてくれているからこそ命があって輝けると分かった。自分の命も相手の命も大切にしたい。